春風秋霜 7月号

平成２７年７月１日
島田市教育委員会だより
教育長　濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む　　佐藤一斎

１　不易と流行について

教育委員会では、月初めに挨拶運動と１分間スピーチを行っています。６月のスピーチでいい話を聞いたので、紹介します。

学校教育課の佐藤指導主事は、御殿場にある「とらや」という和菓子店の話をしてくれました。この店は室町時代から続く老舗店です。この店主は、店が続いてきた理由を「変えるべきものと、変えてはいけないものをはっきりさせてきたこと」と説明したそうです。味も作り方も時代に合わせて変えたけれど、お客様への感謝の気持ちを変えなかったことが、店が長く続いてきた理由だということです。

教育も子供主体が不易だと思います。教える側の論理にたった指導では見えないものが、子供主体で見つめると見えてくるものがあると思います。

２　日本太鼓全国講習会にて

５月１３日（土）に川根町チャリムで日本太鼓全国講習会が行われ、２００人を超す受講者が集まりました。受講者の中には小学生や中学生の姿もたくさん見られ、外国人も少数ながら参加していました。

主催者の挨拶では、障害者の指導にも力を入れているという話があり、耳が聞こえない方でも、膨らました風船を抱えて太鼓の音を聴くと、風船が音を受けて振動するため、太鼓の音（？）を聞き取ることができるそうです。

開会式後の模範演奏は素晴らしいものでしたが、受講した皆さんの真剣な眼差しには感動しました。無駄話はもちろん、身動きする人も見られず、全員が演奏に聞き入っていました。好きだからこそ集中しているのだろうと思いましたが、こんな姿が日々の授業の中でも見られたらと思いました。

３　カナリヤ合唱団ロシア遠征について

５月中旬から９日間、カナリヤ合唱団は、モスクワ近郊のバラシハ市で行われた合唱コンクール「スラブの祭典」に参加し、３１チーム中２位というすばらしい結果を収めました。

報告書を読むと、コンクール以外にも私立学校やギャラリーでコンサートをしたり、モスクワ市でワークショップを開いたりと、積極的に活動してきたようです。また、団員はホームスティをし、ロシアの生活にも触れ、日本の文化も紹介してきたようです。

この遠征において団員は、大変貴重な体験をすることができたようです。誰もがこのような機会を得るわけではありませんから、該当校においては団員の話を聞く機会が持てたら素敵だと思います。

４　市子連親子釣り大会に参加して

６月２１日（日）に市子連主催の親子釣り大会が川根の野守の池で行われました。あいにくの雨模様のため例年に比べ参加総数は少なかったものの、４０組以上の親子が参加していました。お父さんに釣り方を教わったり、餌のミミズを針に付けてもらったりしながら、３０ｃｍ以上の大物や１０匹以上の魚を釣り上げる子供も見られ、雨の中で釣りを楽

しんでいました。
当日の様子を見ていると、初めて釣りをする親子もいたため、釣りの愛好家の皆様の手助けを借りる子供もいました。餌を取られるだけでなかなか魚を釣り上げることのできない子供も、試行錯誤しながら工夫をし、最初の一匹を釣り上げると、どんなに獲物が小さくても大喜びしていました。これが釣りの楽しさだと思います。
教育委員会では、サタデースクール・サマースクール・島田ガンバなど、様々な体験ができる機会を作っています。また、今月末からは夏休みも始まります。夏休みの事前指導では、子供たちが自然の中で様々な体験に挑戦するよう後押しを願います。

５　学校訪問を通して

６月も教育委員で学校訪問を行いました。初倉小学校の 6 年生の体育の授業において、交流学習で参加していた特別支援学級の子供たちが、6 年生以上に跳び箱運動の準備をがんばっていました。子供たちのできることは責任を持たせて行わせるという教師の姿勢が、体育の一場面からも見られました。子供たちの力を信じてやらせてみることが、子供の可能性を伸ばすことになります。障害を持っていても人の役に立つという体験も大切なことだと思います。良い指導者に出会えた子供たちは幸せです。

6月中旬が見頃のジャカランダ

６　島田でもジャカランダの花が見られます

ブラジルの花で世界三大花木であるジャカランダを見つけました。青紫の花が木いっぱいに咲いている様子は感動的です。ちょっと気をつけて見れば、島田市内にも素敵な発見があります。

肘　か　け　椅　子

小出　和博　　教育総務課長

『ブランド竹林』

今年のゴールデンウイーク前の土曜、季節もよく家族の都合もついたため京都まで片道四時間、苦行の日帰りドライブということになりました。車を走らせながら「さてどこへ行こう」ということになりました。末娘から「最近 TV で良く放映される嵯峨野の竹林が見たい」との要望があり、「何の因果で京都くんだりまで出かけて竹林を観光しなければならんのか」不思議に思いつつ車を進めました。
修学旅行のメッカ、嵯峨天龍寺の境内の 1 日置き放題 900 円の格安駐車場に車を止め、天龍寺庭園の裏から大河地山荘までの間の竹林に向かいました。竹林は数百メートルの小径、若干の傾斜のある道で、道の左右が小柴垣で多少整備されてはいました。それなりに美しいものでしたが、客観的に観ると田舎の山里の手入れのされた竹林とさほど差がないように感じました。
しかし、観光客で一杯、日本人の観光客のほか日本情緒を感じるのか多くの欧米人やパンダの国で竹林も珍しいと思われない多くの中国人旅行者まで嬉々として竹林を背景に記念写真の撮影をしていました。
1200 年の都という歴史と「嵯峨野」というロケーションの中で「ただの竹林」を「竹林の小径」と称し一大観光地としている姿を見て、「ブランド竹林には、田舎のノーブランド竹林はとてもかなわないな」と妙な感想を抱きながら帰途につきました。